

新庁舎建設地が決定しました

【経過】

9月13日に開催された公共施設等総合管理特別委員会において、市長より新庁舎建設候補地は「泉町都有地」が望ましい旨の所信表明があり、市議会ではその審査のため、令和元年第3回定例会で、議長以外の議員全員による「庁舎移転に関する特別委員会」（さの久美子委員長、吉田りゅうじ副委員長）を設置し、11月5日に委員会を開催しました。

今定例会では、市長より「議案第89号 国分寺市役所位置変更に関する条例について」が上程され、委員会で更なる審査が行われた後、12月20日の本会議において、各会派等から当該議案に対する賛成・反対の討論があり、その後に行われた特別多数議決の投票の結果、3分の2以上の賛成により可決されました。

このことにより、新庁舎の建設場所が「泉町都有地」に正式に決定しました。

【庁舎移転に関する特別委員会における質疑等】

- Q 地方自治法第4条第2項の規定について、市の見解は。
 A 条文における便利とは、位置や交通事情、防災性、利便性などであり、官公署とは、国や都の機関、郵便局、病院などが考えられる。
 Q 市民説明会を実施した感想は。
 A 市民との意見交換の重要性を再確認。様々なご意見があったが、防災の視点から泉町にとのご意見もいただいた。
 Q 新庁舎建設に反対の市民に対する市の見解は。

- A 分散庁舎により市民にご不便をかけている。また、災害の際、新庁舎が防災の拠点として果たすべき役割は非常に大きい。
 Q 移転した場合、現有地の跡地活用に市民の意見を聞いてほしい。
 A これまでと同様、地域の方々のご意見も聞きながら、老朽化した公共施設の再編、出先機関の設置、民間活力導入などを検討する。
 Q 市長が説明会を実施したように、今後も丁寧な説明をしてほしい。
 A ワークショップ等を開催して、考え方を説明していきたい。

【本会議における討論】（各会派等が一定のスペースで自由にまとめたものを討論した順番で掲載。無会派については文字数を人数で按分）

新庁舎は全市民の安心 安全の為早期建設を！



自由民主党市議団（賛成8名）

吉田りゅうじ

▼現庁舎は一刻も早く立て直すべき

現在の国分寺市庁舎は、旧本庁舎が耐震性に問題ありとのことから平成24年度に解体され仮庁舎として行政の機能が分散したまま現在に至っている。加えて、庁舎は災害時の災害対策拠点として従前以上の更なる機能強化が求められてきているなど建て替えは急務である。

▼市域全体に丁寧な情報公開・意見収集に努力
井澤市長が「建設候補地は泉町が望ましい」とする所信表明をし、市長出席による説明会を市内各地で開催するなど丁寧な情報公開・意見収集に努めたことは明らか。但し、市民の理解度は千差万別、市担当には更なる努力を求める。

▼建設地決定後は市民とワンチームで進めよ！

想定事業費は100億円を大きく超えるものであり、財政面から見ても庁舎建設資金積立基金の積み上げが順調に進んだとは言え、後世に残す形の借金も多くあるなど、建設地が決まった後にも様々な懸案がある。議会としても議員それぞれの見識を持ってしっかり議論し乗り越えていくことが肝要、ワンチームで進めるべし！

「跡地活用」議論を 市民参加で、一刻も早く



国分寺政策市民フォーラム
（賛成5名）

星 いたろう

☆建設費・跡地活用に関する説明は不十分

・市民の税金を100億円以上投入するにも関わらず「基本構想」（2019年3月）より詳しい想定事業費が提示されることはなかった。賛否を決めるための十分な説明がされたとは言えない。
 ・多額の建設費が福祉等に与える影響を懸念する。これに対して「一般財源の10%以下に借金をおさめる」「市民生活に必要なものを削減しない」との答弁。しっかりと守っていただく。
 ・市の出先機関、恋ヶ窪公民館図書館、福祉センターが戸倉の跡地活用案として示された。施設の老朽化・バリアフリー化に対応するとの姿勢を評価する。ただし、施設の移転の有無については地域住民との今後の議論が必要。跡地活用については、早急かつ十分な期間をとって、市民や議会の議論を保障することを強く求める。

☆課題を提起したうえで、移転に同意する理由

①泉町都有地は建設期間が短い②現庁舎用地は、仮庁舎や駐車場の別敷地を確保しなければならない③業務と工事を同時に進める現庁舎用地は、安全対策費で建設費が上振れする可能性が高い。

市民への説明も議論も 不十分な議決に反対



日本共産党国分寺市議団
（反対3名）

中山 とう

市役所を移転するのであれば、第一に、積極的に合理的な理由が十分に明らかであり、第二に、住民の利害に関する点が特に大きいことからより丁寧な市民参加が議決の前提になる。

市長の「泉町が望ましい」との表明後、移転跡地の活用方針の説明や、市民意見の集約の努力をすべきであった。また、市は「優劣つけがたい」とした2つの候補地から絞り込むための専門部会を設置したが検討プロセスがほとんどない。これでは、スケジュールありき、泉町ありきだったと言わざるを得ない。

そのため、大災害時のリスクと想定される中央線での分断などに対する必要な検証をしていない。市長は「そのような大災害では広域連携に頼らざるを得ない」と答弁した。しかし、広域的な支援を受けられるまでに一人でも多くの市民の生命を救う対策は市の責務。防災を移転理由の一つにしなごう、この点、市民に説明できる水準にないことを看過できない。

市民参加・庁内意思決定プロセスの不足など議決を判断する前提が欠けているため反対する。

財政負担を抑え 庁舎建設計画目標の達成を



公明党（賛成3名）

高橋りょう子

新庁舎建設にあたっては多額の予算執行が見込まれるが、公債費負担比率10%以下を維持し基金残高50億円を堅持する。今後の財政規律を示した事は評価する。今回泉町都有地を購入し新庁舎が建設できれば、その土地は将来への資産となり、又一定以上の規模である現有地はタネ地として公共施設のマネジメントが大きく前進し様々な可能性が広がる。防災機能の視点からは隣接する都立武蔵国分寺公園での広域避難、消防署本署の移転やいずみプラザに於ける医師会との連携が迅速に図られる等、市民の安全安心も確保できる。今後は泉町での新たな地域防災計画や業務執行の環境整備等体制の構築を望む。又現有地と各サービスコーナーの機能性アップや内容の充実により、市民サービスの確保と新庁舎へのアクセスの整備等の検討もお願いしたい。人口ビジョンでは令和12年から生産年齢人口が減少し少子高齢化は確実である。市が示した計画、掲げた目標達成は決して容易ではないが、油断なく慎重に取り組まれる事を強く求め本議案を賛成とする。

防災や環境に配慮した 庁舎建設は市民参加で



無会派（国分寺・生活者ネットワーク）
（賛成2名）

高瀬かおる

庁舎建設には多額な予算が必要だ。リサイクルセンター建設など他の事業も考慮し、市民生活の質を落とさない財政運営を求める。その上で①業務を行いながらの戸倉での建替えには、仮設庁舎用に代替地が必要で、工事車両の動線や市民の安全面も含めて難易度の高い工事になる。②都有地購入は庁舎建設用に限定され、跡地の活用方法によっては購入費軽減がある③都有地周辺には消防署など災害時に連携が必須の関係機関があり、通信機能が喪失しても連絡が取りやすい…など総合的に判断し「庁舎を移転し現庁舎跡地を老朽化した公共施設の再配置など新たなまちづくりの拠点として活性化すること」は、市全体のまちづくりからも有効と考える。

市役所移転には十分な 市民説明と合意形成を



無会派（反対1名）

木村 徳

市役所建替は必要と判断するが建設地は住民投票で判断すべきと選挙前から主張してきた。実施せずに市の地理的中心に近い現在地から移転をするならば、少なくとも市民理解を得るに十分な説明をすべきだった。しかし跡地利用や、泉町都有地の取得額をはじめとする財政支出額なども明らかにされず、本議案には反対する。



特別多数議決の記名投票の様子